

凡例

I 見出し語

ビートルズのオリジナル作品の歌詞とアルバム名に登場する言葉だけを、太字を用いて、アルファベット順に配列した。語数は 1895。

名詞の規則的な複数形および規則動詞の活用形は含めていない。

複数の綴り方が考えられるものは、**all right** = **alright** のように、両方を記した。

II 品詞

《名詞》のように、二文字を《》で囲んで示した。

分類は次のとおり：《動名》（動名詞）、《固有》（固有名詞）、《名詞》（その他の名詞）、《人代》（人称代名詞）、《指代》（指示代名詞）、《不代》（不定代名詞）、《疑代》（疑問代名詞）、《関代》（関係代名詞）、《定冠》（定冠詞）、《不冠》（不定冠詞）、《所形》（所有形容詞）、《指形》（指示形容詞）、《疑形》（疑問形容詞）、《形容》（その他の形容詞）、《自動》（自動詞）、《他動》（他動詞）、《助動》（助動詞）、《疑副》（疑問副詞）、《関副》（関係副詞）、《副詞》（その他の副詞）、《前置》（前置詞）、《接続》（接続詞）、《間投》（間投詞）。

名詞の不規則複数形、形容詞の変化形、一部の助動詞の否定形や過去形は、《変化》で示した。不規則動詞の活用形は、《活用》で示した。それぞれ、[名詞 child の複数形]、[形容詞 bad の比較級]、[動詞 be の一人称単数現在形] のような説明を直後に配した。

加えて、《略語》（BBC など）、《短縮》（ain't など）、《接尾》（'s）、《発音》（gonna など）、《仏語》（フランス語の単語）という項目によって、すべての言葉を分類した。

III 語義

主な語義を ①②③… の番号で大別し、訳語を示した。ビートルズ作品に使われていないものであっても、有用な情報と思われるものは含めてある。

前置詞については、訳語のみならず、本来の意味を [] 内に示した。

IV 用例

ビートルズによる用例がある語義については、該当する作品番号を〔〕で括って、語義の直後に示した。〔045, 067, 104, 107, 138, 168〕の如くである。作品番号は本書の姉妹書で用いたものと同じで、本書の 328～332 ページにも一覧表を掲載してある。

加えて、と言ってもこれが中核なのであるが、適例を載せた。歌詞から抜粋した延べ 5800 の用例を挙げ、その和訳を（）で括って示し、作品番号を付記した。次のような具合である： You feel a fool.（自分が馬鹿みたいな気がする）〔071〕。

具体的な文例の代わりに構文の例を示す場合がある。この際は、主語（subject）には S、目的語（object）には O、補語（complement）には C を充てた。目的語が二つある時は、直接、間接に関わらず、先行するものを O₁、後のものを O₂ とした。

適例が複数ある場合は、なるべく“ビートルズ英語文法ガイド”に収録していないものを挙げるようにした。

作品番号に + が付いている用例は、ダブル・ミーニングと考えられるものである。同じ見出し語の別の語義を当たると、片割れが見つかるはずである。

作品番号に ? が付いているものは、作詞者の意図した意味が不明確であることを表す。多くの場合、同じ見出し語の別の語義で、別の解釈を示してある。

?? は、実際に歌詞の一部として使用されているかどうか不確実であることを表す。

作品番号に * が付いているものもある。これは意味に疑問はないのだが、複数の文法解釈が可能であることを表す。〈〉で括った説明を近くに施してある。

ビートルズ作品に用例が認められない語義についても、紙面が許せば、用例を示すようにしてある。このために 1050 の用例を作成した。

V 用法

用法の説明を [] で括って示した。[英国]、[口語]、[俗語]、[卑語]、[集合的に]、[限定]、[叙述]、[補語を伴って]、[make+目的語+原形不定詞]の構文で使役を表す]、[目的語となる名詞節を導いて]、[文語]、[非標準]、[誤用] などがある。